

医学研究センター

研究評価部門

椎橋 実智男
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム(「業績プロ」)の運用による本学の研究業績のデータベース化、および、独立行政法人科学技術振興機構が運用する「研究開発支援総合ディレクトリ(ReaD)」と連携した本学の研究業績の公開である。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、最近の状況を報告する。

1 研究開発支援総合ディレクトリ(ReaD)とは

(Directory Database of Research and Development Activities)

ReaDは、産学官連携、研究成果の活用、および研究開発の促進に資することを目的として、国内の大学・公的研究機関等に関する研究機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を網羅的に収集・提供しているサイトであり、独立行政法人科学技術振興機構によって運用されている。

<http://read.jst.go.jp/>

ReaDに収録されている情報

カテゴリ	登録件数	情報項目
研究機関	約2,200機関	研究機関名称、所在地、沿革、研究分野、事業概要など
研究者	約200,000人	氏名、所属機関、職名、研究分野、研究テーマ、研究業績など
研究課題	約58,000件	研究課題名称、研究代表者名、概要、研究分野、研究成果など
研究資源(*)	約3,600件	研究資源名称、連絡先、概要、利用方法など

2 本学独自の研究業績データベースシステム(「業績プロ」)について

1) 概要

業績プロは、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の研究者の研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。現在、医学部と保健医療学部を合わせて1,146名(平成22年10月5日)の研究者が登録されている。

<http://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

(医学研究センターのホームページからもリンクあり)

2) 利用状況

図1から図6に2007年から2010年の、部門ごと、資格ごとのアクセス率の推移を示す。アクセス者数は、2007年度は658名(全研究者の59.3%)であった。2009年度には881名(全研究者の78.0%)に上昇したが、図に示したようにその利用率は十分とは言えず一層の活用が望まれる。

3 研究業績データベースシステムの利用率の向上のために

1) モチベーションの向上

研究業績データベースは、研究機関である大学組織の研究業績を把握し、さらなる研究の発展、学内外の共同研究の推進、社会貢献の告知などを目的としている。一方、人事考課への活用は研究業績を管理することの副産物として、教員の手間を軽減することを目的としている。しかしながら、現状では「人事考課のために入力させられている」という誤った認識を持つ教員が少なくない。そのために「評価され管理されている」というネガティブな受け止められ方をされている面がある。

研究業績データベースの本来の目的の周知に加え、集計結果のフィードバックなど、登録した業績が利用

(活用)されていることを知ってもらうための活動をこれまで以上に行う必要がある。

2) 臨床の助教の利用率の向上

臨床の教員が多忙であることを承知の上であえて数値を示すと、基礎医学部門、共通部門、保健医療学部と比較して、臨床部門の教員の利用率は低い傾向にあり、その中でも特に助教の利用率が低い(図1から図6)。

臨床の助教に活用してもらうためには、上司からの教育が最も有効であろうと考えられる。運営責任者や研究主任から、これまで以上に研究業績管理の重要性を説明してもらえよう方策を検討する必要がある。また、研究業績データベースに登録することによって得られるメリットを告知していく必要がある。

3) システムの改善

システムの改善については検討が進み、その一部は予算化され、入力作業の軽減を中心とした改善が予定されている。さらに、ファイル出力形式など各教員による管理作業の軽減のための改善も必要である。

研究業績データベースアクセス率の比較

2010年10月5日作成

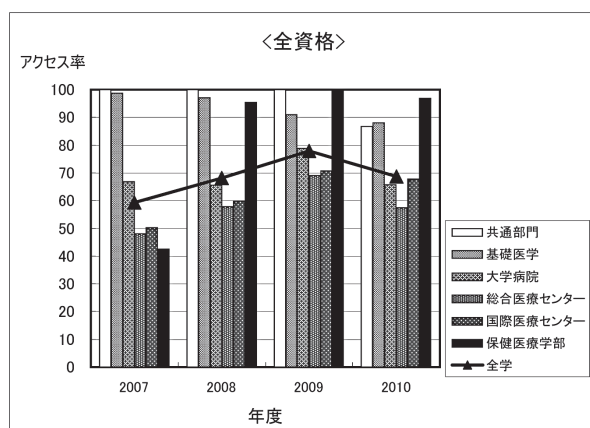


図1.

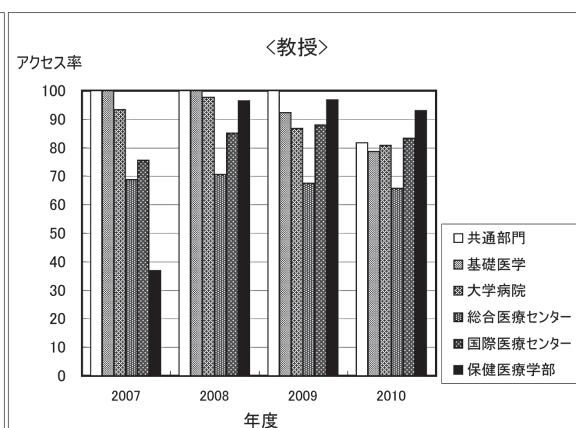


図2.

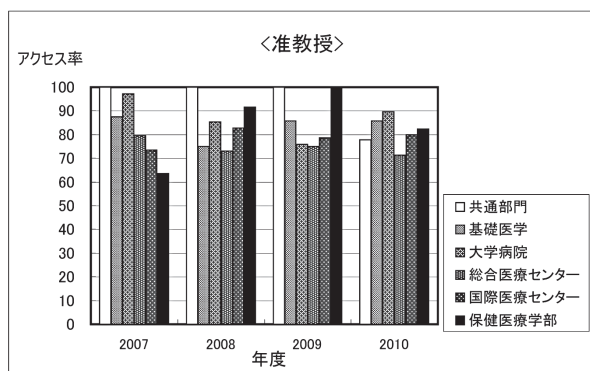


図3.

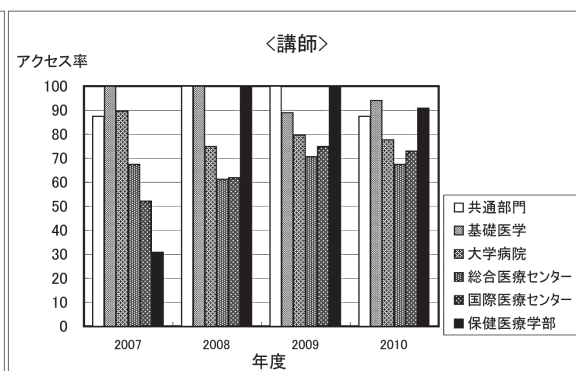


図4.

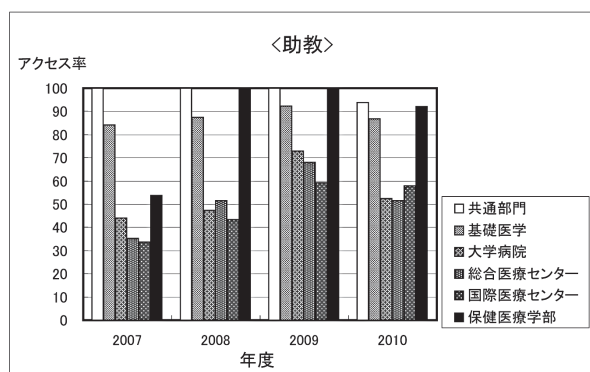


図5.

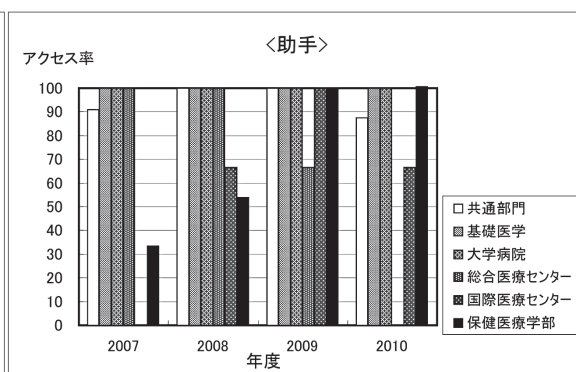


図6.